

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170200376		
法人名	株式会社ハピネライフ光		
事業所名	グループホームはあとピア		
所在地	鳥取県米子市久米町200		
自己評価作成日	令和4年 12月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 31/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Jigyosyc

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571		
訪問調査日	令和5年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で居心地良く感じていただける雰囲気作りに努めています。日々入居者様の思いに対して応じられるよう職員同士で話し合い努力しています。又、ご家族様の困り事にも相談に応じて助言致しております。職員とご家族との信頼関係の構築に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合施設(デイサービス・小規模多機能施設・ショートステイ・グループホーム)であり、事業所間で応援やアドバイス等で連携をとっている。ホームに活気があり、利用者一人ひとりの思いを尊重し、活動に取り組んでいる。調理と清掃を外部業者に委託し、職員は利用者の支援を丁寧にゆったりとかかわり、家庭的な雰囲気が感じられる。コロナ禍で外出が難しいが、広いベランダを活用し、天気の良い日は鉢植えの花や野菜に触れたり、ゆったりとした時間を過ごしている。毎月勉強会を行い、家族への対応や利用者のケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で家庭的にその人らしくを理念として、公民館祭に作品を出品している。	「地域の中でその人らしく、家庭的に暮らし続けることを支えていく」という理念を共有して、利用者に関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、状況報告を行っている。	コロナ禍のため、地域との付き合いは難しいが、公民館まつりに作品を出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で実践できていないが、公民館祭への作品作りに力を入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期開催をしており、日々のご利用者様の様子を知っていただくと共に助言をいただき、日々の入居者様の生活への気配り・目配りに活かしている。	運営推進会議では事業所の様子や取り組みを報告し、地域の区長や交番署員のアドバイスを受けて利用者の支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員、地域包括センターの職員、駅前交番、自治会長に運営推進会議へ参加していただき、意見交換・協力関係を呼びかけている。	運営推進会議の際、施設の情報を提供して意見交換し、適切なアドバイスを受けている。また、運営に困ったときは気軽に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて話し合いを行い、また、定期的に研修を行っている。	定期的に「身体拘束をしないケアの実践」の研修を実施し、職員で共有している。安全確保や危険防止のためやむを得ない場合は、あらかじめ介護計画の中で確認し、家族の同意を得るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	半年に1回チェックシートで確認をするとともに、定期的に研修を行っている。職員のストレスマネジメントについても研修を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を利用している方がおられ、研修を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人および家族に契約書に基づいて書面にて説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者から苦情をうかがったり、意見箱を設けて対応している。コロナ禍により運営推進会議への家族様の参加ができていないが、電話などで要望を伺っている。	日常の生活の中で利用者の意見要望を聞き取っている。家族には意見要望を聞く機会が限られているが、電話等で聞き取り運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の場や、日々の職員からの意見や提案を聞き、その内容を運営に反映している。	毎月の職員会議の場だけではなく、普段から意見・提案等話しやすい関係に努めている。また、職員の意見は管理者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年ごとに職員へ書面にて実績や希望職種などの聞き取りや、必要に応じて面談を行い職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を行い、知識を共有している。コロナ禍により参加できる研修は減ったが、外部の研修参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により交換研修は行えていないが、法人内の各種委員会にて意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様より困り事や要望を時間をかけて伺うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談時だけでなく、質問や疑問、要望にはその都度答えさせていただきようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴なども参考にしながらその方らしい生活が送れる様、ニーズを捉え、それに応えられるようなサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々、ご本人のやりたいこと、できることを大切にして支援している。掃除や片付けを一緒に行い、食事のメニュー書き等ご自身の役割が持てるように働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信をお届けする際、日々のご様子を報告したり、電話連絡時にご家族と話ができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会や外出の機会は減ったが、本人様より思い出話を聞くことで忘れなような支援は行っている。	コロナ禍で面会や外出・帰省が出来ない。自宅から届いた家族の写真を見たり、天気の良い日にドライブなどに出かけている。ネット環境が悪く、テレビ電話やオンライン面会はしていない。	ネットワーク環境を改善し、テレビ電話などが可能になるよう努めてほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	協力してテーブルを拭くなど日常生活の中で助け合いの場面を作れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて連絡をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でお話を聞きながら、希望に沿えるように努めている。職員間で情報を共有し希望に沿うよう支援している。	★職員は利用者一人ひとりの希望や意向を把握して、利用者が気持ちよく過ごせるよう、チームワークよく全職員で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からも聞き取りを行い、どのような生活を送って来られたのかを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いに沿った生活を送れるよう聞き取りを行い、好きなことや趣味にあわせたレクリエーションを提供している。また、その方の能力に合った役割を持っていただくことで達成感を感じていただけるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当職員がモニタリングを行い、それをもとにカンファレンスにて話し合い、出た意見を計画書に反映させている。	日頃、本人や家族からの要望や変化に応じ、職員皆で意見交換を行い、本人がより良く暮らせるよう介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や話された事など含め情報を職員間で共有できるように記録するよう心掛け、日々のケアや計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の特徴を生かし、他部署の設備を使用させていただく事もある。また、ご家族の都合がつかない場合は、医療機関への受診を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設としては働きかけているが、ご利用者個人としての生活の中では協働できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力医療機関から、診察に来ていただいている。往診での対応が困難な場合は、他の医療機関への受診を行い健康管理を行っている。	月2回かかりつけ医の往診を受けている。皮膚科や歯科等の治療は、専門医療機関への受診を家族に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることや身体の変化は看護師と情報共有し、協力医に報告している。受診が必要なら家族様と相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として看取りは行っていないことを説明し、重度化し共同生活が困難になった場合には、ご家族と話し合いを行いご本人に合った場所へ転居していただいている。	あらかじめ利用開始の時、看取りは行わないことを説明している。重度化した場合は看護師や医師の相談のうえ、病院や他施設への転居を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先を事務所に掲示している。また定期的な勉強会を行い、全職員が緊急時に対応が出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をご利用者と一緒に実施している。事務所に緊急時の対応マニュアルを張り、常に確認できるようにしている。運営推進会議の場で自治会との連携・協力体制の話し合いを持ったが、立地的に会社や高齢者世帯が多く難しいとのこと。	年2回(1回は夜間想定)で消防署の立会いの下、利用者と共に避難訓練を実施している。緊急時の対応マニュアルに沿って他の部署からの応援を受け、安全に避難できるよう努めている。	施設は3階にあり、階段は急なためエレベーターでの避難しかできない。3階の広いテラスへの避難方法や梯子等の安全確認を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の性格を理解し、プライドや尊厳を傷つけないような言葉かけに努めている。定期的にチェックリストで確認を行っている。	利用者一人ひとりの希望・性格などを考慮し、適宜席替えをしている。年2回、接遇チェックリストにより自己評価点検を実施し、個々で振り返っている。	接遇自己評価の振り返りを、接遇委員会等で共有してはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	画一的なスケジュールではなく、ご利用者様の生活リズムや希望に添えるよう聞き取りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	静かに過ごされるのか、活発に過ごされるのか、一人一人のペースに合わせて過ごして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時に、職員が一方的に服など用意するのではなく、ご本人の希望を聞きながら、一緒に決めていけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳などできることをしていただき、一緒に準備している。毎月の昼食作り・おやつ作りでは、皆様の希望を聞きながらメニューを決めている。	食事は外部委託で、利用者の好みに合わせ、食べやすく調理してある。月2回希望を聞き、昼食とおやつを利用者と共に作り、コミュニケーションを図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取状況を記録し、把握に努めている。また、摂取量が少ない場合は医師に相談し食事形態を変更したり栄養補助飲料を処方していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、不十分な方には職員が介入している。義歯の方は夜間浸け置き洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔などを観察し、時間が空いている方は声掛け・案内している。	殆どの利用者はトイレで排泄し、自立している。生活リズムや習慣の中で声掛けをして、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、運動を促したりしているが、下剤に頼らざるを得なくなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿った時間での入浴は困難であるが、希望時には入浴していただいているようにしている。	入浴は利用者が楽しみにしており、週3回の入浴を目標にしている。利用者の希望に添うよう必要な支援をしている。	入口のスロープ、入浴時の安全な暖房の整備をしてはどうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールのソファや自分の居室など、思いのままの場所でくつろげるよう、日常的に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員の助言にて、処方変更時には注意事項などを申し送っている。各ご利用者の服用している薬はカルテへ情報をファイルし、薬効、副作用など理解し状況に応じた服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴やできることを聞き取り、役割を持つことで達成感を感じてもらうように工夫し、実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により制限はあるが、ドライブや個別に散歩をして頂いている。	コロナ禍により以前のように外出はできないが、紅葉・花見の時期には弁当を用意して利用者と共にテラスで楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は持っていておらず、こちらでも預かっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、家族への電話は職員がかけてご本人に取り次ぐなどしている。また、手紙や荷物が届いたときには、お礼の電話や手紙をかえせるように職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真やご利用者の作品などを展示している。又、飾りつけなどで、季節が感じられるような空間作りをこころがけている。	居間は季節感を考えて装飾に気遣い、四季折々に手作りで居心地よい雰囲気演出している。日中はほとんどの利用者が居間で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルの位置を工夫したり、都度席替えを行い入居者同士で会話ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着のあるものを居室に置いていただき、居心地の良い空間になるよう支援している。	本人の意向を聞き、好みの飾りつけや配置など工夫している。部屋の温度は22～23度、湿度は56～60%に設定しているが現在空調が悪く修理中である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞や時計、カレンダーなどは確認しやすい所に置き、トイレにも表示を大きく書いて見やすい工夫をしている。又、米とぎやシャツ交換など職員と一緒に「できること」をしていただいている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ禍に面会や外出ができなかった。ネット環境や職員の勉強不足でオンライン面会やテレビ電話での面会を実施していない。	ネットワーク環境を改善し、オンライン面会ができるよう環境を整える。	今持っているタブレット端末の活用。使えるよう研修を行う。	6ヶ月
2	36	年2回接遇の自己チェックを行っているが、それだけで終わり、振り返りができていない。	接遇委員会の委員にはいってもらい、接遇自己評価の振り返りを行う。	接遇委員による研修を実施する。	6ヶ月
3	45	浴場までの廊下の坂が見えづらい。浴場のエアコンが故障しており、石油ストーブを使用していた。	廊下の坂の境目にテープなどを張り見えやすくする。浴室のエアコンの整備を行う。	坂の境目にテープを張る。エアコン整備を本社に依頼する。	6ヶ月
4	35	施設は3階にあり災害による避難時にはエレベーターを使えず、テラスへの避難しかできない。	テラスへの避難以外の方法を見つける。	非常階段が使えるか確認する。	6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。